



第1号様式(第6条第1項)

八千代市市民活動団体支援金交付申請書

令和2年 2 月 12 日

(宛先) 八千代市長 様

団体名 八千代市郷土歴史研究会

代表者の役職及び氏名 会長 田 中 巖



主たる事務所の所在地 八千代市大和田新田452-20

電話 047-459-2506

八千代市市民活動団体支援金の交付を受けたいので、関係書類を添えて下記のとおり申請します。

記

1、事業の名称 ふるさとの歴史展・語り継がれてきた神野の歴史

2、事業の概要

2015年9月の国連サミットで採択されたSDGsの「目標4・質の高い教育をみんなに」「目標3・全ての人に健康と福祉」を目標とする。

神野は八千代市東北部の標高約20mの台地にあり、集落は大地北側の低地に展開している。村の北側は旧印旛沼(現新川)に面し、中央部を南北の旧道にほぼ沿うように県道千葉竜ヶ崎線が通る。県道には特色がある石造物が多い。熊野神社周辺には砦の遺構がある。神野村の名は室町時代に「下総国白井荘星名郷」の内「神村」と出ている。江戸時代になると慶長7年(1603)の検地帳に「白井領内神ノ村」とあり、田方7町9反余、畑方3町2反余。佐倉藩領。村高は「元禄郷帳」で106石余、「天保郷帳」「旧高旧領」ともに159石余。明治22年に阿蘇村の大字、昭和29年に八千代町の大字、同42年に八千代市の大字となった。この神野の郷土歴史を住民の理解と協力を得て調査研究活動を行う。

令和2年12月5日、6日にオーエンス八千代市民ギャラリーで発表展示会を開催、調査結果資料をまとめた「史談八千代・第45号」を発刊して、市内図書館、公民館、中・高・大学校に寄贈する。千葉県、千葉市など周辺都市の図書館、博物館にも寄贈する。昨年度調査研究を行った「保品」地区も一部引き続き調査活動を行う。



3、事業費の総額 600,000円

4、交付の申請額 300,000円

5、添付書類

- (1) 申請事業計画書(第2号様式)
- (2) 申請事業収支予算書(第3号様式)
- (3) 定款、規約等の写し
- (4) 団体の概要がわかる書類
- (5) その他市長が必要と認める書類

申請事業計画書

<p>事業の目的</p>	<p>1、2015年9月の国連サミットで採択されたSDGsの目標4・質の高い教育をみんなに、目標3・全ての人に健康と福祉を「郷土の歴史」を学ぶことにより目標を推進する。</p> <p>2、「温故知新」歴史の基に現代があり、未来がある」市民と共に郷土の歴史を知り、将来の八千代市を築く活動をする。</p> <p>3、郷土の歴史を調査研究して、展示会「ふるさとの歴史展」を開催（12月5日、6日）、郷土歴史の講演などを行い、市民みんなで郷土の歴史を共有する。</p> <p>4、調査研究成果をまとめた「史談八千代」第45号を発刊して、市立各図書館、郷土博物館、市内中・高・大学及び周辺都市の図書館、博物館に献本する。</p>	
<p>事業の効果</p>	<p>1、郷土の歴史を調査・研究する事により、ふるさとの歴史の新発見、再発見ができ、後世に伝えることができる。（温故知新）</p> <p>2、研究成果を基に、八千代に住む市民に「ふるさとの歴史」を知って頂く催事「ふるさとの歴史展」を開催して、郷土愛、地域住民の絆を深め、豊かな生活ができ、市民との人間関係の構築に貢献することができる。</p> <p>3、郷土の産業の歴史を知ることにより、新しい農商工の発展につながる。</p> <p>4、「ふるさと」の感覚が薄らいでいく時世に、「第二のふるさと」を作ることができる。</p> <p>5、調査・研究活動は、有形、無形の貴重な文化財を守り、後世に継承することができる。</p>	
<p>主たる対象</p>	<p>八千代市民（特に神野地区）及び周辺都市郷土歴史研究関係者</p>	
<p>事業の実施期間</p>	<p>1、調査活動 2020年4月～11月調査研究活。</p> <p>2、2020年12月5日、6日に「ふるさとの歴史展」開催</p>	
<p>事業の実施場所</p>	<p>1、八千代市神野地区と一部保品地区</p> <p>2、オーエンス八千代市民ギャラリーにて「ふるさとの歴史」展開催</p>	
<p>事業に係る広報の計画及び方法</p>	<p>1、月次機関紙「例会だより」で会員及び関心のある市民に伝える。</p> <p>2、「広報やちよ」に掲載する。</p> <p>3、「商工やちよ」に掲載する。</p> <p>4、J:COMからの案内、結果を放送する。</p> <p>5、一般新聞、地域情報紙などによる広報活動。</p> <p>6、市民ギャラリー、公民館、東葉高速など人の集まるところにポスター、案内情報などを掲示する。</p> <p>7、当研究会が実施するイベント実施時に参加者へDM等により直接PRする。</p> <p>8、SNSなどのメディアによるPR。</p> <p>9、会員によるクチコミ。</p>	
<p>事業をどのように行いますか（具体的に記載してください）</p>	<p>1、「神野の歴史」研究活動計画原案作成する</p> <p>2、計画原案を神野住民と検討し、研究テーマを決め、活動計画案を作成する。</p> <p>3、活動計画案の研究テーマごとに住民を含めた研究プロジェクトチームを編成する。</p> <p>4、研究プロジェクトチームは9月末頃まで研究活動をおこなう。</p> <p>5、研究成果を「史談八千代・第45号」に寄稿する原稿作成をする。</p> <p>6、研究成果を発表する作品制作、講演する準備をする。</p> <p>7、ポスター掲示、広報やちよ等メディアに掲載、DM等の広報活動をおこなう。</p> <p>8、12月5日、6日にオーエンス八千代市民ギャラリーにて「ふるさとの歴史展」を開催する。</p> <p>9、12月5日「史談八千代・第45号」を発刊する。</p> <p>10、八千代市立図書館、公民館等の公共機関、市内の中・高・大学、周辺都市の図書館、博物館に「史談八千代・第45号」を寄贈する。</p>	
<p>前年の申請事業の課題、当該課題に関する改善点等</p>	<p>更なる市民との協働を推進すること。</p> <p>①地域の住民との協働を進める。 活動計画段階から地域住民との活動を推進する。</p> <p>②お世話になった旧村での祭り事に積極的に参加する。</p>	

## 事業のスケジュール

時 期	内 容	参加予定人数 (内会員数)	前年の参加人数 (内会員数)
年 月	市民文化祭参加「ふるさとの歴史展・神野の研究」の研究活動 具体的な活動を推進する目的で ①ふるさとの歴史展実行委員会を設立する。 ②「史談八千代第45号」編集委員会を設立する。	8ヶ月間 延1,000人 (延300人)	8ヶ月間 延1000人 (延300人)
2020年4月 ～10月	1、調査・研究 ①研究テーマ素案作成 ②素案を下に地域住民との意見交換 ③研究テーマ原案を作成 ④研究テーマごとに住民を含めた研究チームを編成する。 ⑤具体的な研究活動を進める。 ⑥研究成果の研究会内部発表(月次例会)をおこない。他の研究テーマとの連携、正確性を確認する。 ⑦各研究テーマのまとめをおこなう。		
2020年10月 ～12月	2、研究成果発表 ①展示会発表の概要案作成 ②展示会発表作品の制作 ③ふるさとの歴史展会場の設計と設営 ④歴史講演の概要設定 ⑤展示及び講演内容説明プログラム作成 ⑥「史談八千代」に掲載する原稿執筆、校正 ⑦「史談八千代」印刷、製本		
2020年10月 ～11月	3、広報活動 ①広報活動の概要を作成。 ②ポスター、チラシ、DMハガキなど制作 ③市の関係する施設、東葉高速各駅などにポスターの掲示 ④各新聞、TVなどにニュースリリースする。 ⑤過去の来場者に案内DMをおこなう。 ⑥広報やちよに案内を掲載する。		
2020年12月	4、展示会、講演の実施 市民文化祭「ふるさとの歴史展」開催 ①12月5日(土)、6日(日)の2日間 ②オーエンス八千代市民ギャラリーにて史談八千代第45号の発刊 ①12月5日(土)発刊 ②市立図書館、公民館、中・高・大学に献本。 周辺都市の図書館、歴史博物館などに献本。		

第3号様式(第6条第2項第2号)

申請事業収支予算書

八千代市郷土歴史研究会

1 収入

項目	金額	説明(積算等)
自己資金	¥300,000	当研究会の会費及び寄付金
支援金	¥300,000	八千代市市民団体活動支援金
合計	¥600,000	

2 支出

項目	金額	説明(積算等)
報償費	¥20,000	神野研究に於ける外部専門講師料(1万円×1人×2回)
交通費	¥50,000	現地調査・研究のための交通費(延100人X@500円)
消耗品費	¥100,000	インク、用紙など
材料費	¥50,000	展示会出展物制作資材など
印刷製本費	¥300,000	研究、説明、展示資料作成、印刷、コピー代など
通信運搬費	¥70,000	案内DM費&献本送料
使用料	¥10,000	打合せ、準備のための会議場使用料(@2,000円X5回)
合計	¥600,000	